

コアシンポジウム 4

「機能性消化管疾患の最前線【Rome IV から V へー日本における現状と課題および最新知見】」

主司会 小池 智幸（東北大学病院消化器内科）

副司会 栗林 志行（群馬大学大学院医学系研究科消化器・肝臓内科学）

Rome V では、機能性消化管疾患は「腸脳相関病（disorders of gut-brain interaction: DGBI）」と再定義され、腸脳相関が病態の主体であることが強調されている。一方、本邦では診断のための検査体制の普及や、治療における多診療科間の協力体制の構築の必要性など、解決すべき課題も多い。本シンポジウムでは DGBI に関する最新知見を共有し、本邦の現状と課題について議論したい。基礎・臨床を問わず、本テーマに関する演題を幅広く募集する。